

文教常任委員会資料

令和6年9月17日

(2024年)

教育委員会事務局学校教育課

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

標記の件について、次のとおり報告します。

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- (3) 本取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の内容

- (1) 調査実施日 令和6年4月18日（木）
- (2) 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年
- (3) 調査内容
  - ア 教科に関する調査
    - ・小学校 国語、算数で実施
    - ・中学校 国語、数学で実施
  - イ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査
- (4) 受検者数
  - ア 小学校 実施学校 18,466校 集計対象児童数 947,579人
  - イ 中学校 実施学校 9,268校 集計対象生徒数 875,952人

## 3 調査の活用

- (1) 各学校においては、調査結果を踏まえ、個々の児童生徒の全般的な学習状況の改善等に努めるとともに、教育指導等の改善に向けて計画的に取り組んでいく。
- (2) 城陽市教育委員会においては、調査結果を踏まえ、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、市内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を推進する。

## 4 結果の概要

全国との比較から、小学校は国語が同程度、算数でやや上回っている。中学校では国語、数学ともにやや下回る結果となった。

I C Tを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを推進するとともに、学習意欲と知的好奇心の向上につながる非認知能力を一体的に育む取組が必要である。

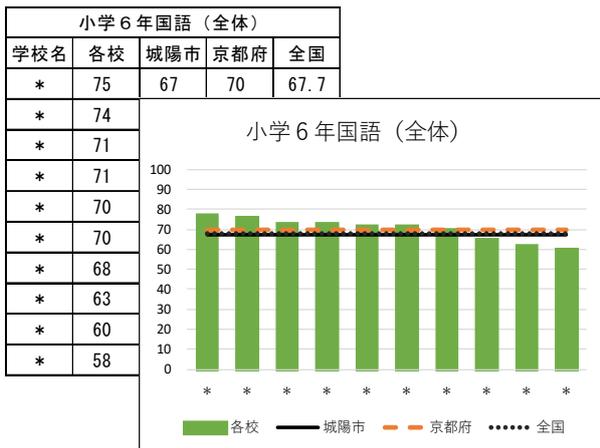
質問調査では、自分のペースで学習する上で、多数が授業でのタブレットの活用を肯定的に捉えている。また、自己の考えや意見の発表に際しても、話の組立や資料の工夫をしている割合が多くなっている。自主的に課題の解決に取り組む態度は、小学生ではやや低位であったが、中学生では平均以上にまで伸びている。家庭学習については、小中学校とも少ない傾向にあり、見通しを持って計画的に活動する力の育成が重要である。

## 5 小学6年国語の結果

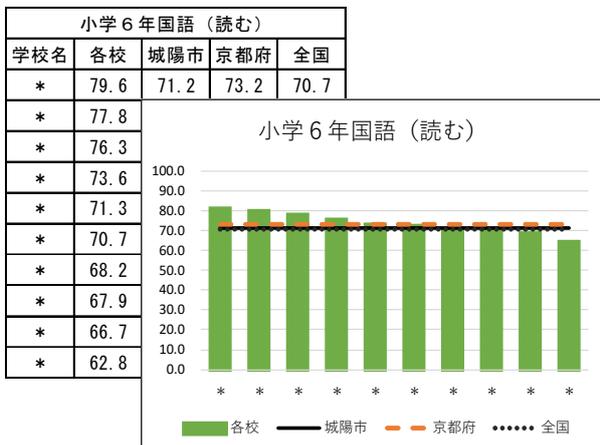
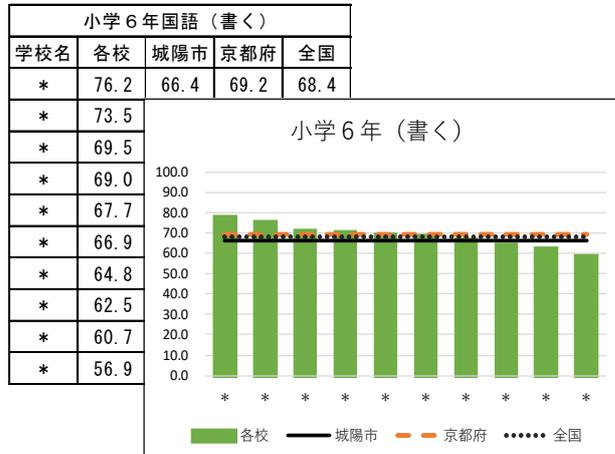
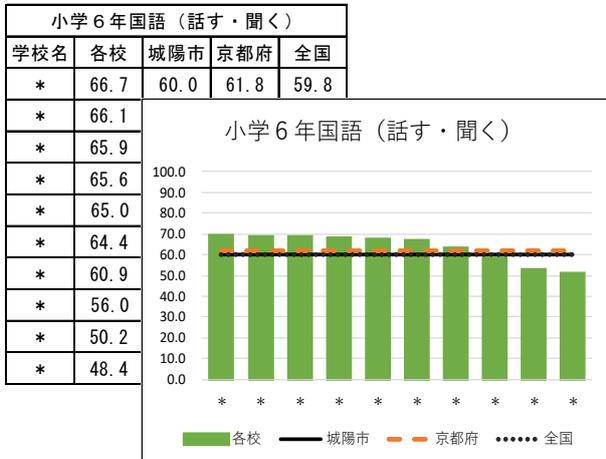
- ・城陽市における「全体」の平均は、全国平均とほぼ同程度となりました。また、「領域」については、「書く」について課題が見られました。
- ・国語科の授業では、文章を要約したり、考えたことをまとめるなどして、書く活動を多く取り入れ、さらには書いた内容を交流したり、推敲するなどの活動を充実させていくような授業展開が求められます。

### (1) 調査の状況

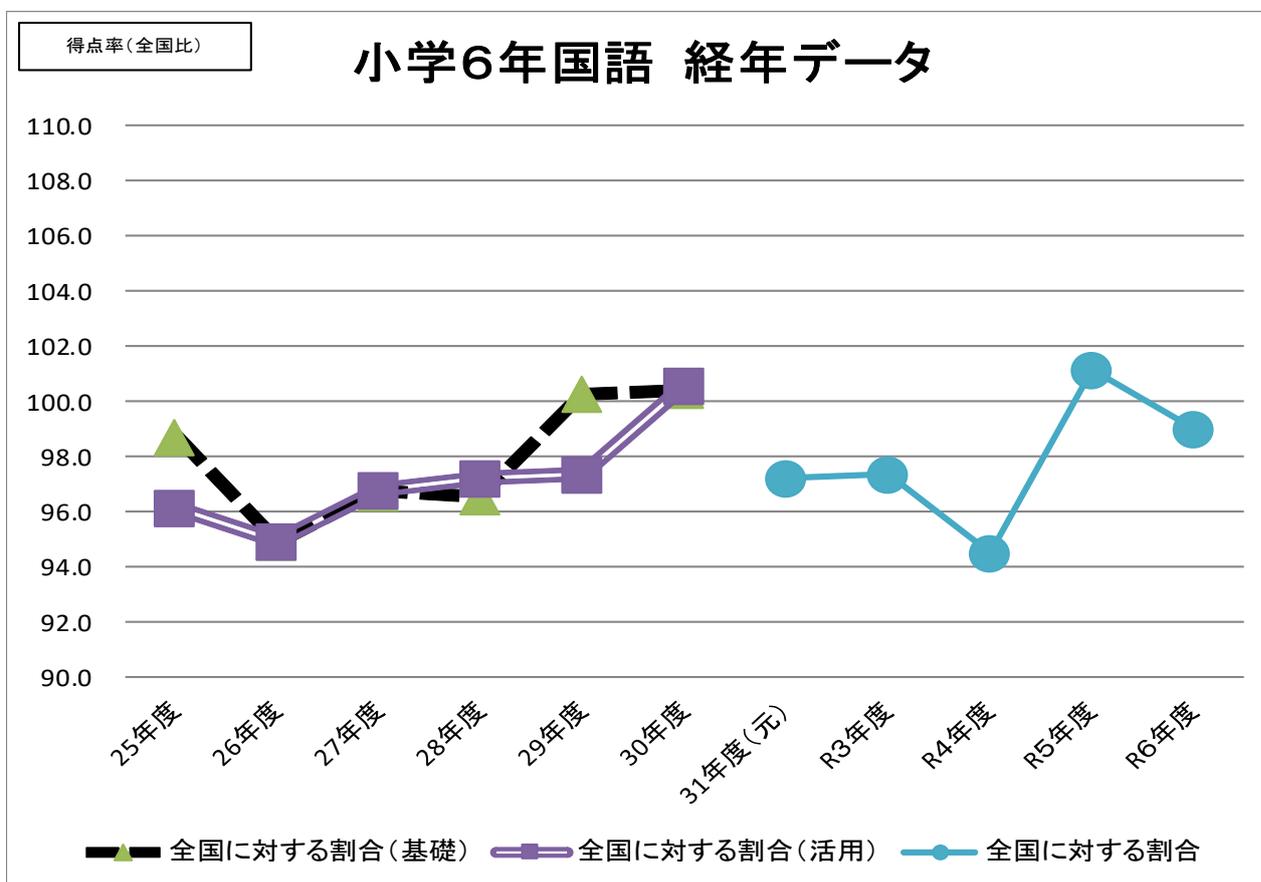
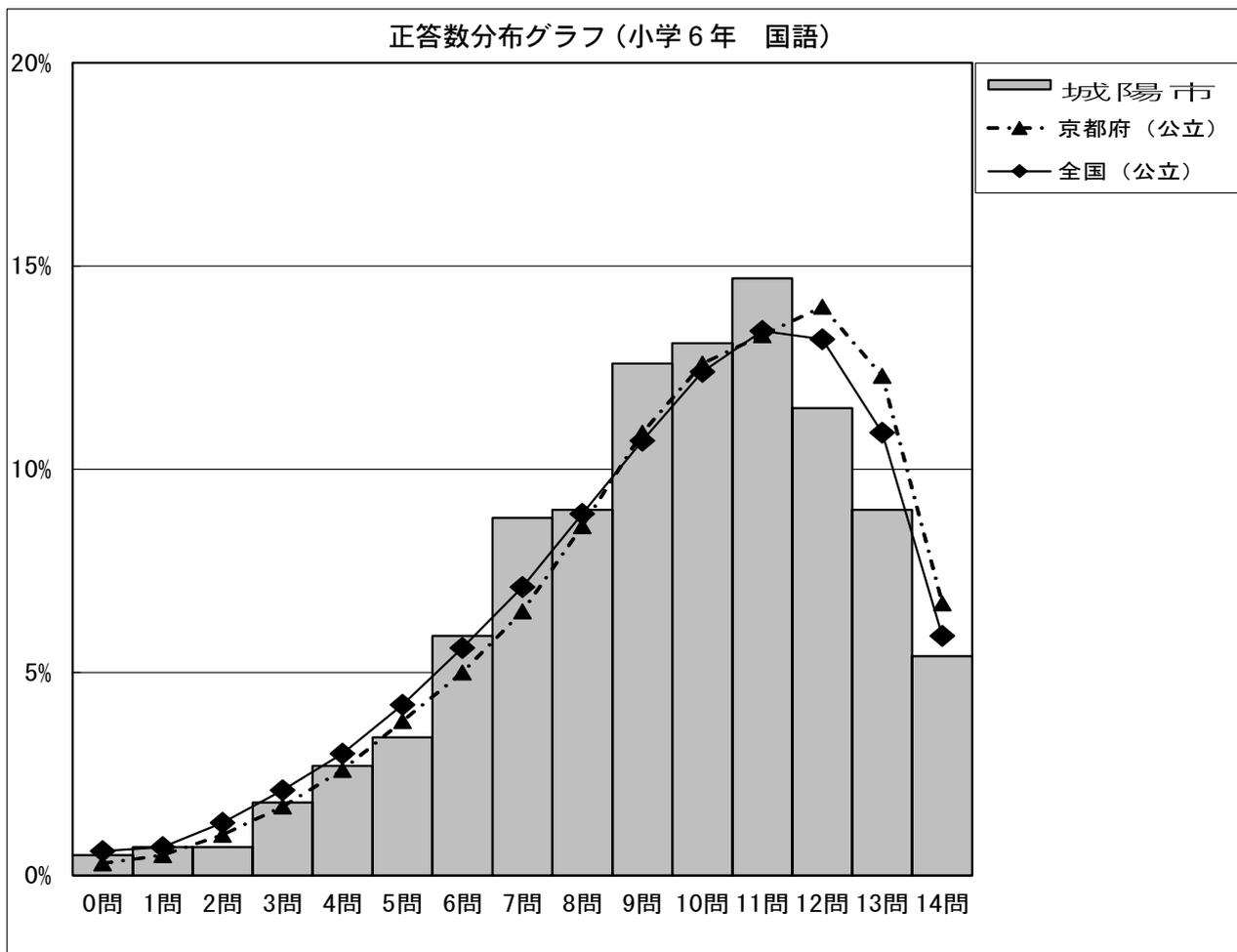
#### <全体の結果>



#### <領域別の結果>



(2) 正答数分布グラフ・経年データ・正答率別推移

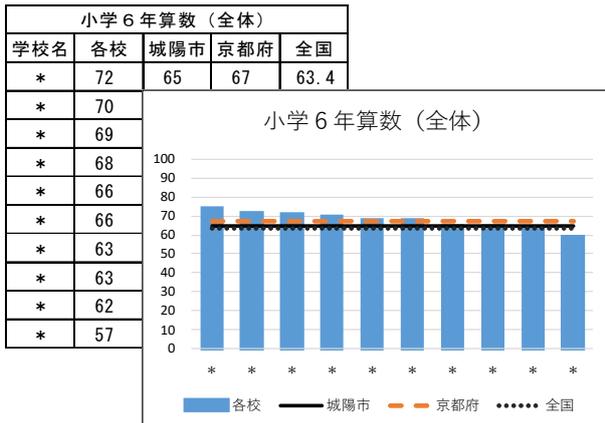


## 6 小学6年算数の結果

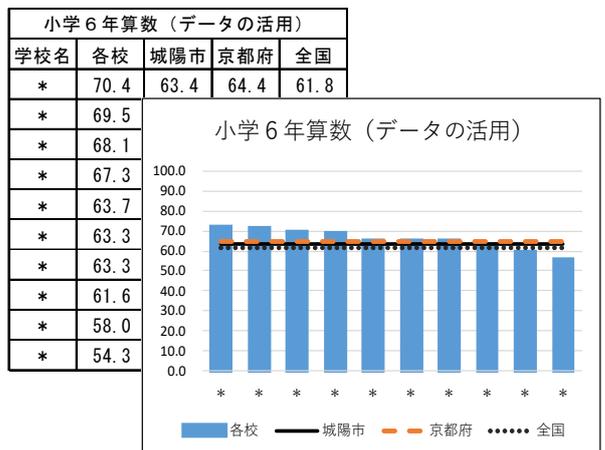
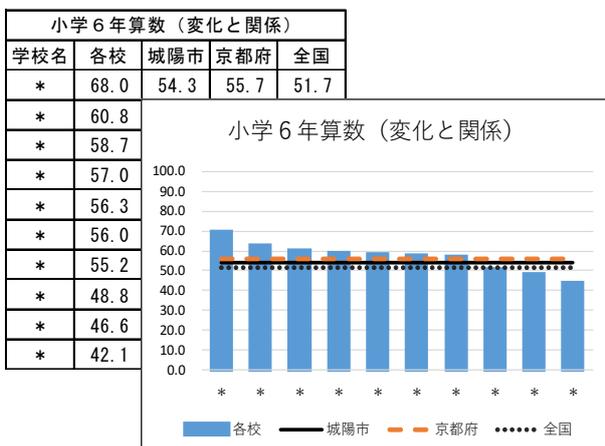
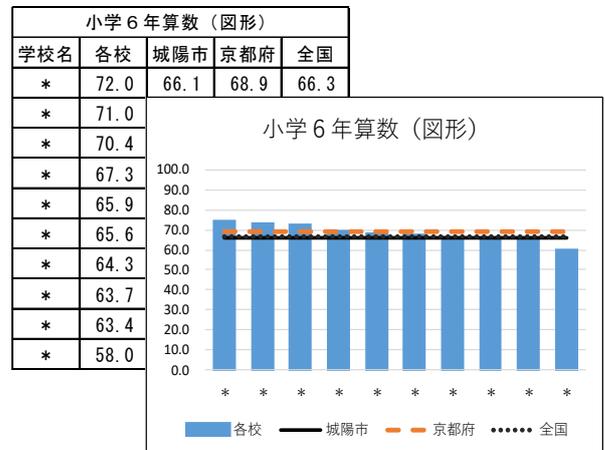
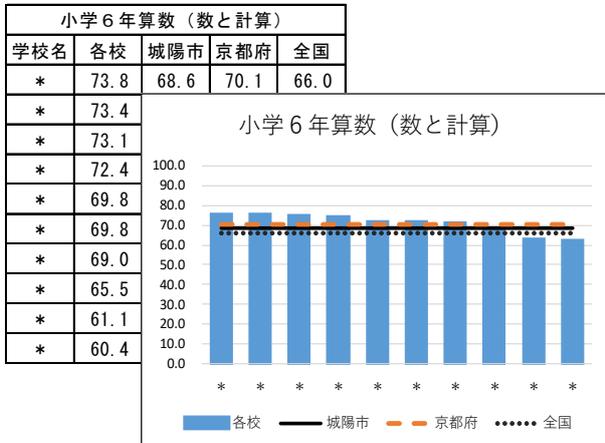
- ・城陽市における「全体」の平均は、全国平均をやや上回る結果となりました。「領域」については、「図形」で同程度、その他の領域は上回りました。
- ・今後は、さらに発展的な課題に取り組み、問題解決の方法を交流して自分の考えを深めるなどの活動を多く取り入れ、さらに「振り返り」の時間を充実させるなどして、深い学びにつなげることが大切です。

### (1) 調査の状況

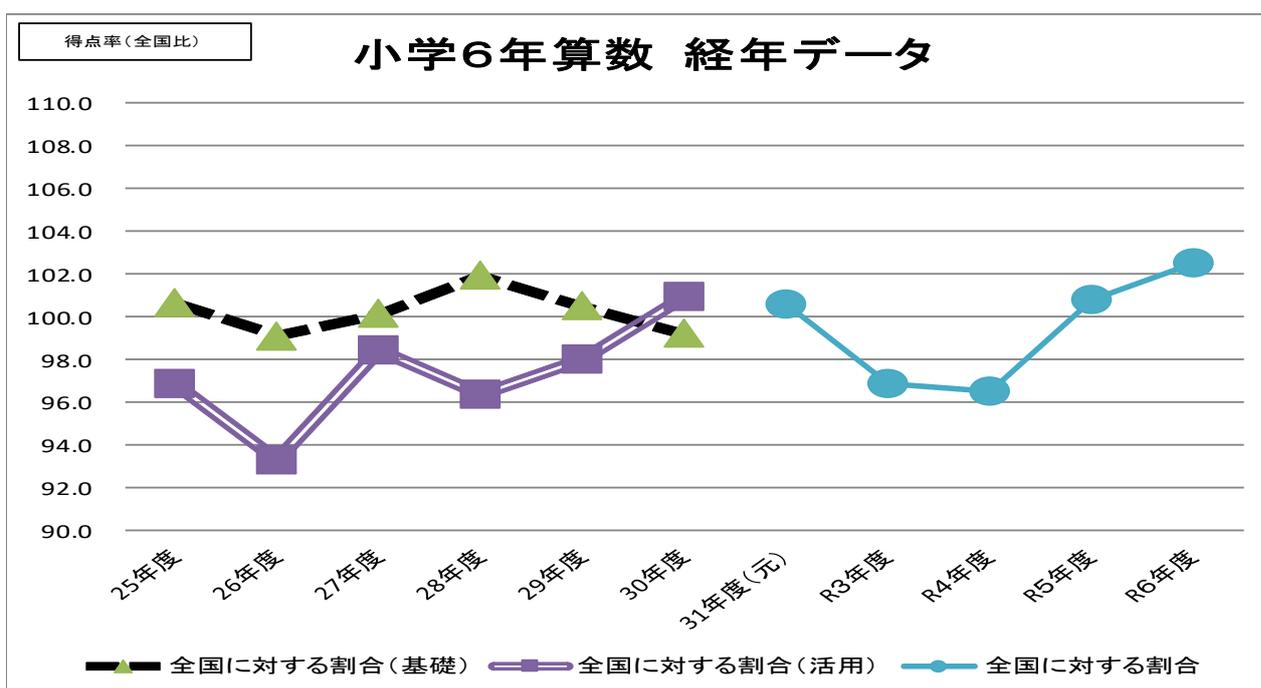
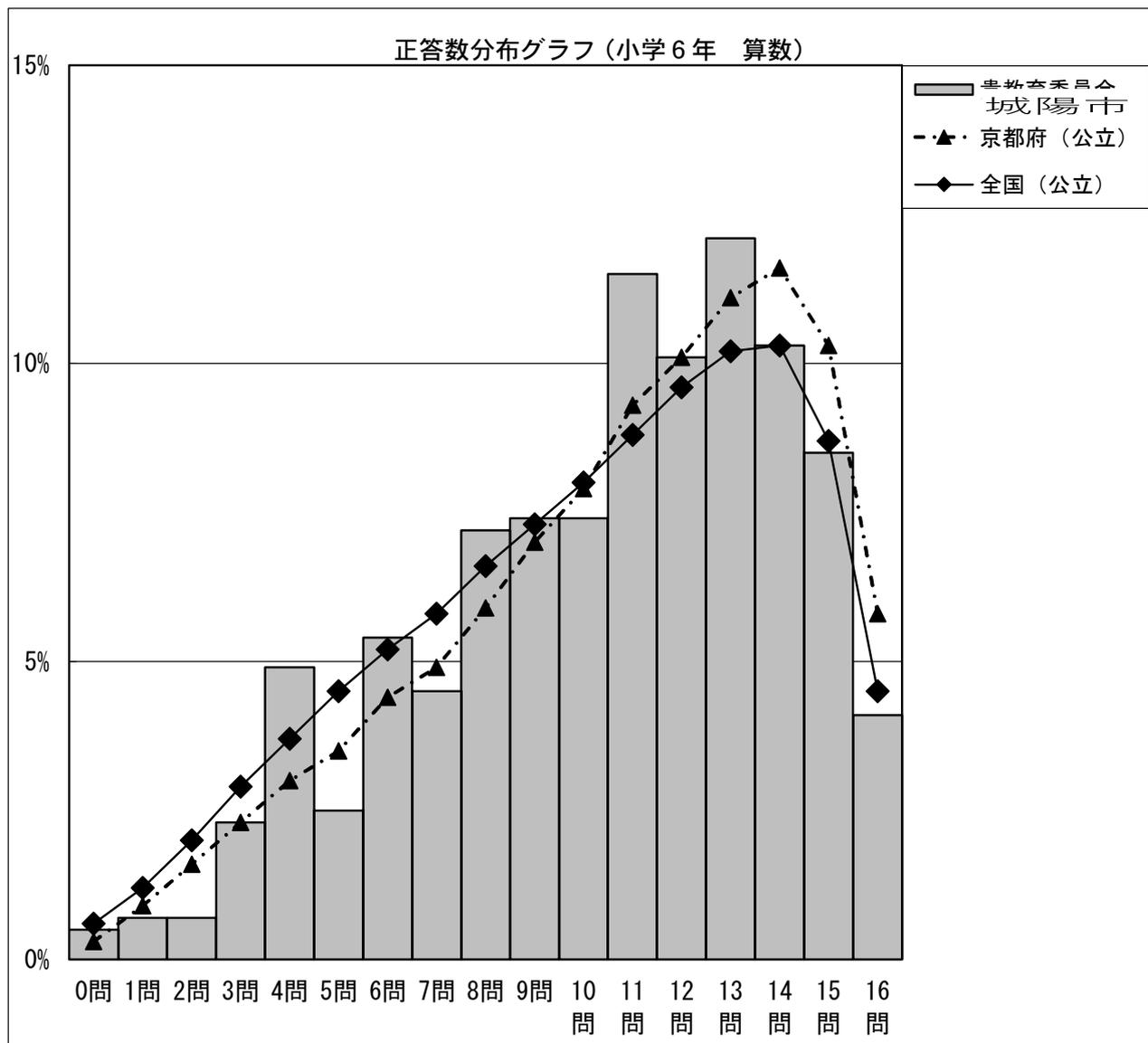
#### <全体の結果>



#### <領域別の結果>



(2) 正答数分布グラフ・経年データ・正答率別推移

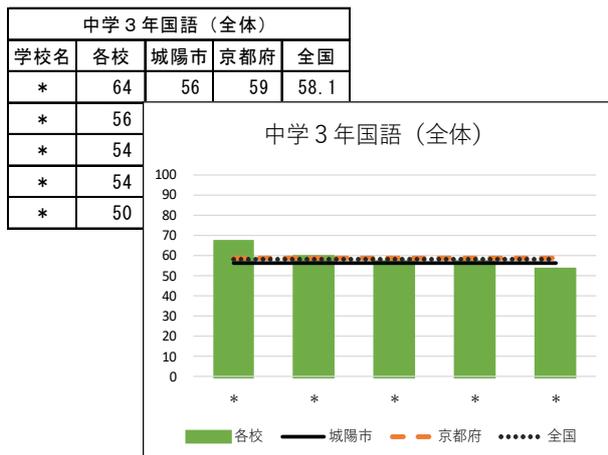


## 7 中学3年国語の結果

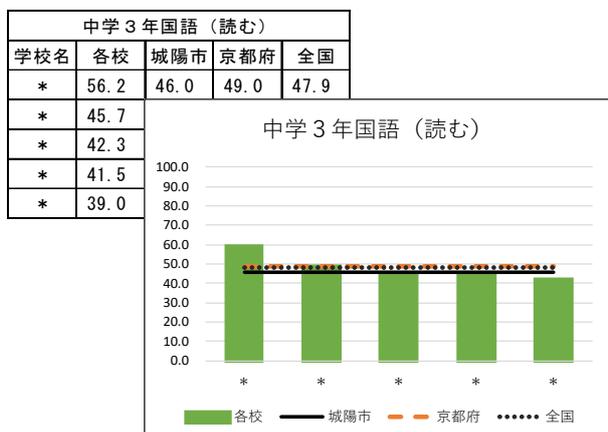
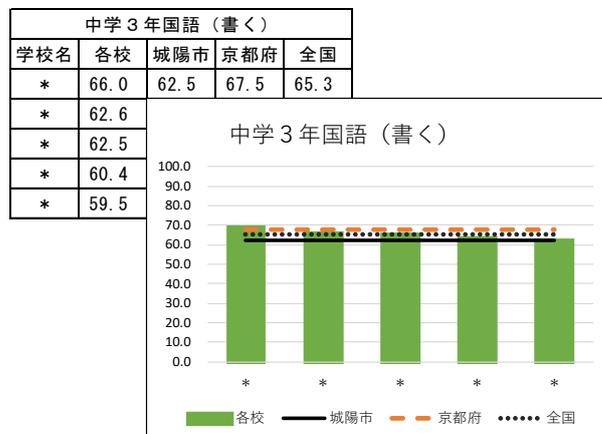
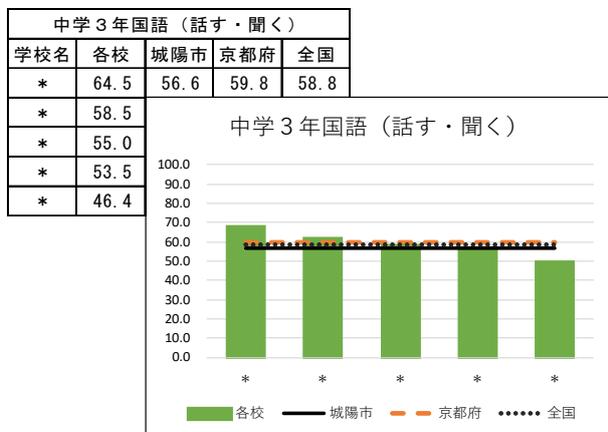
- ・城陽市における「全体」の平均は、全国平均をやや下回る結果となりました。また、「領域」については、どの領域においてもやや下回る結果となりました。
- ・経年の推移を見ると、小学6年から中学3年にかけては高位層が増え、低位層が減少しています。
- ・主体的に学びに向かうことができるような工夫をするとともに、言語活動を充実させ、「話す・聞く」「書く」「読む」力をバランスよく養うことが大切です。

### (1) 調査の状況

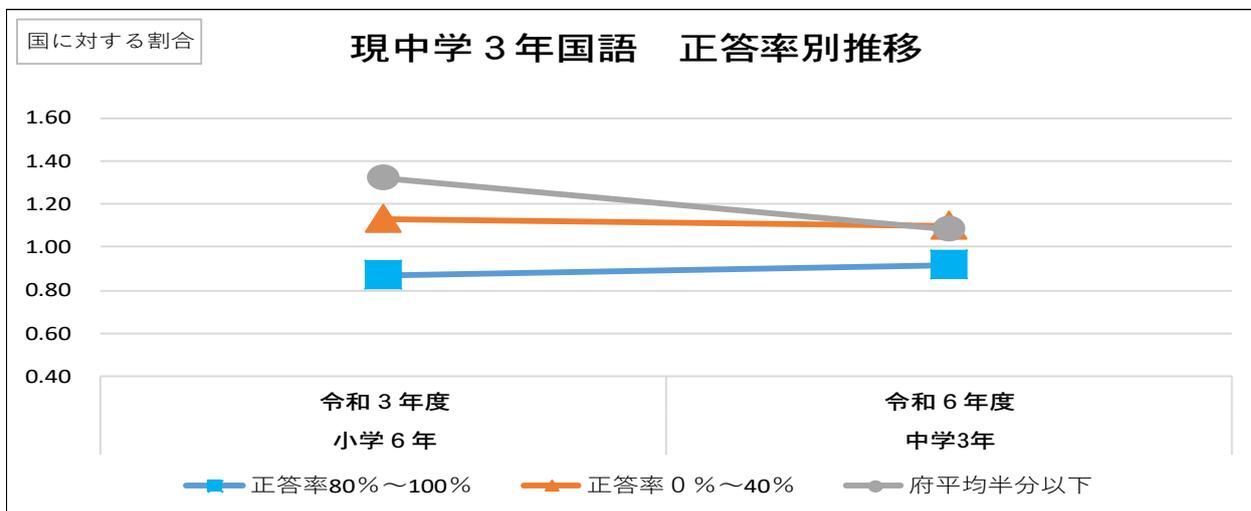
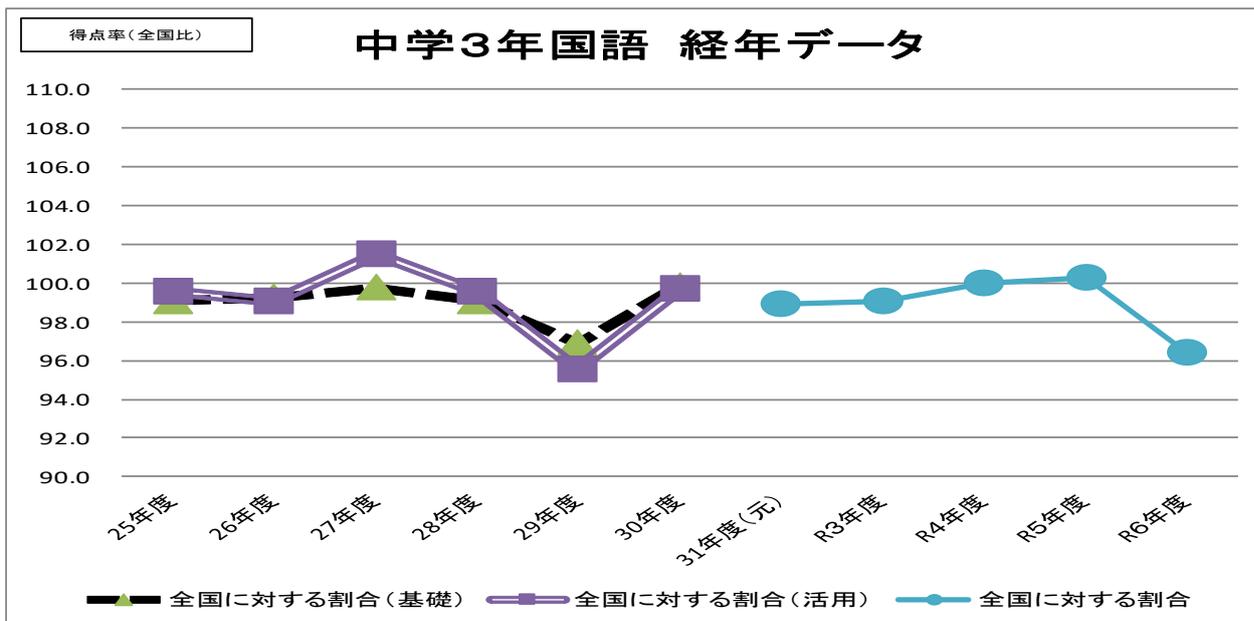
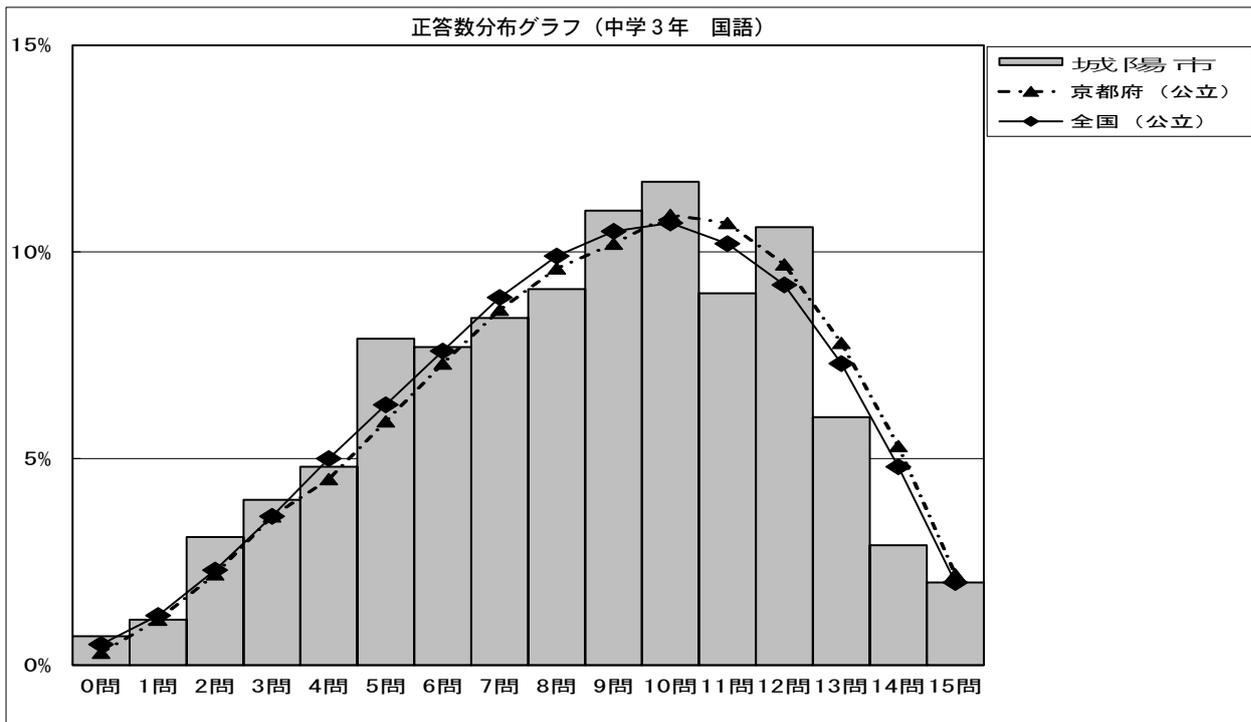
#### <全体の結果>



#### <領域別の結果>



(2) 正答数分布グラフ・経年データ・正答率別推移

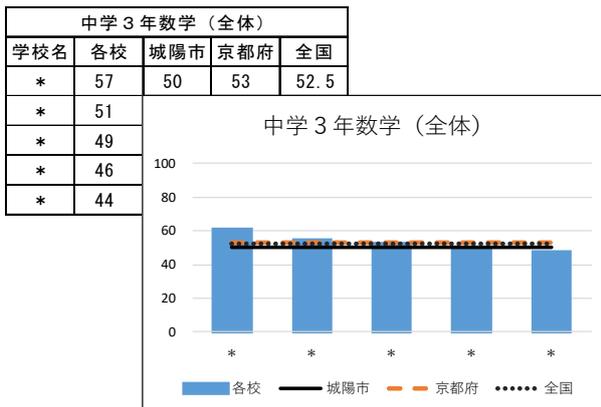


## 8 中学3年数学の結果

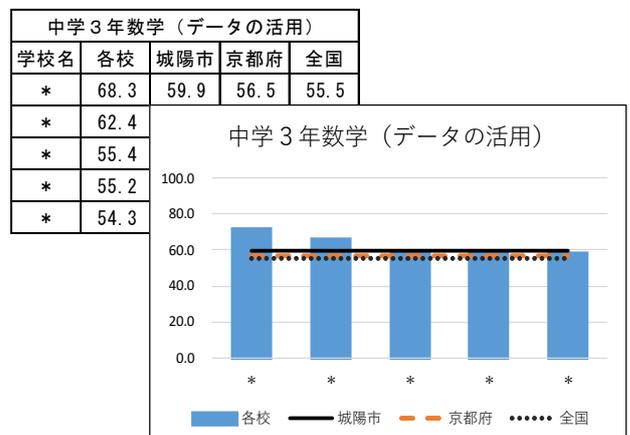
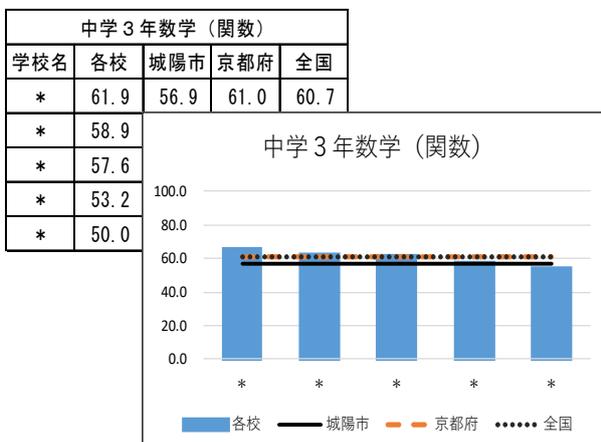
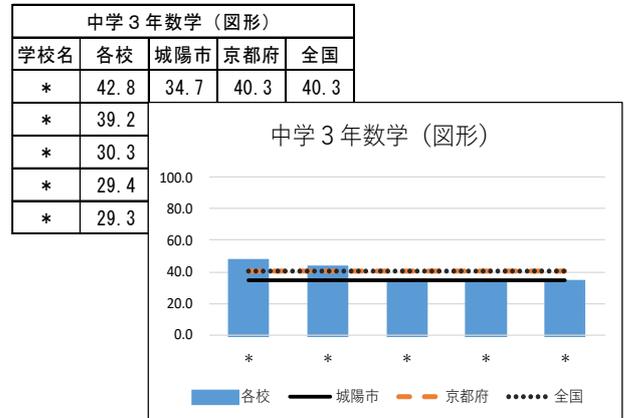
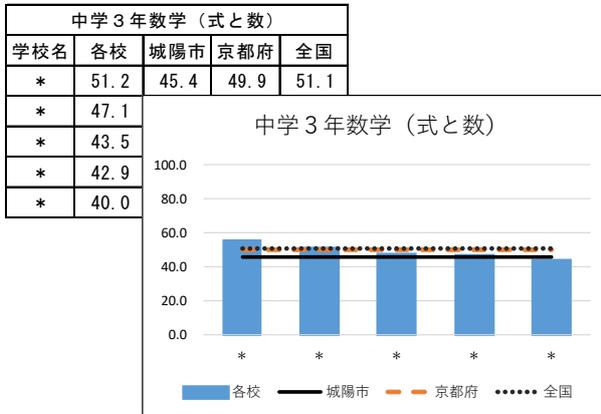
- ・城陽市における「全体」の平均は、全国平均をやや下回る結果となりました。また、「領域」については、特に「データの活用」は全国平均を上回りましたが、その他は下回る結果となりました。
- ・経年の推移を見ると、小学6年から中学3年にかけて、高位層と低位層が減少しました。
- ・今後も、基礎基本の定着を図る取組を充実させるとともに、生徒一人一人が、問題解決の方法を数学的に説明したり、総合的・発展的に考察したりするなど、「数学的な見方・考え方」を働かせた活動の充実が大切です。

### (1) 調査の状況

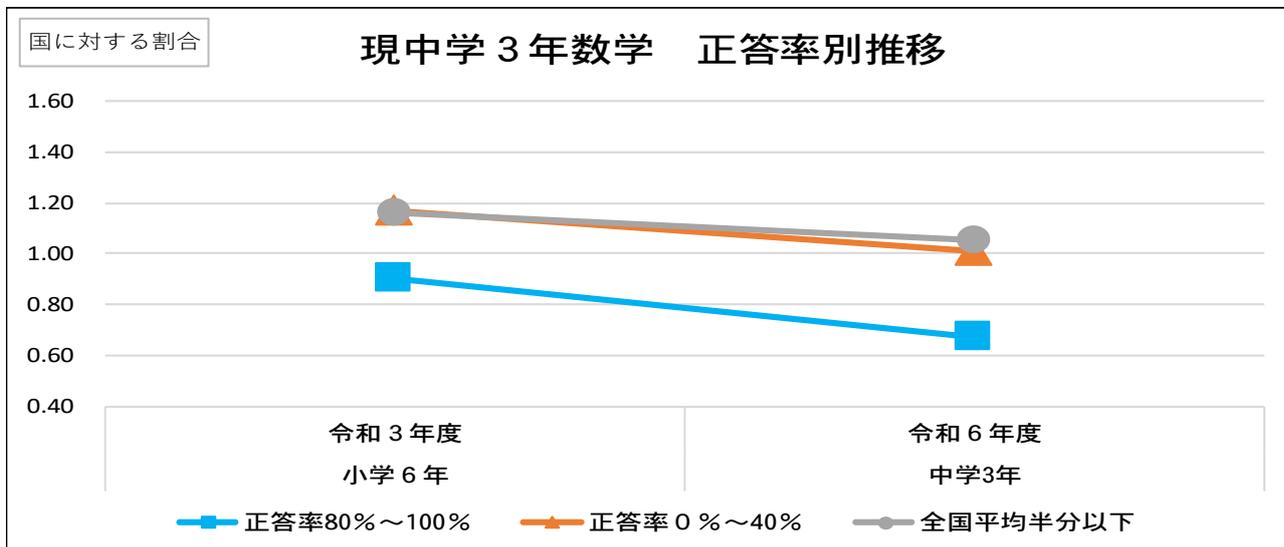
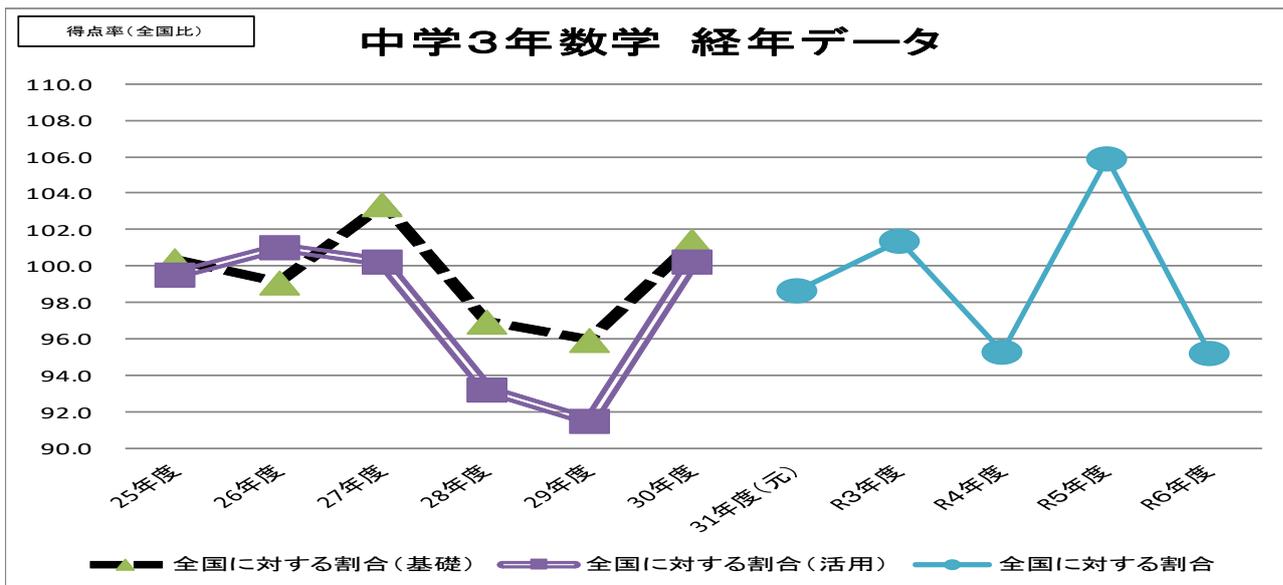
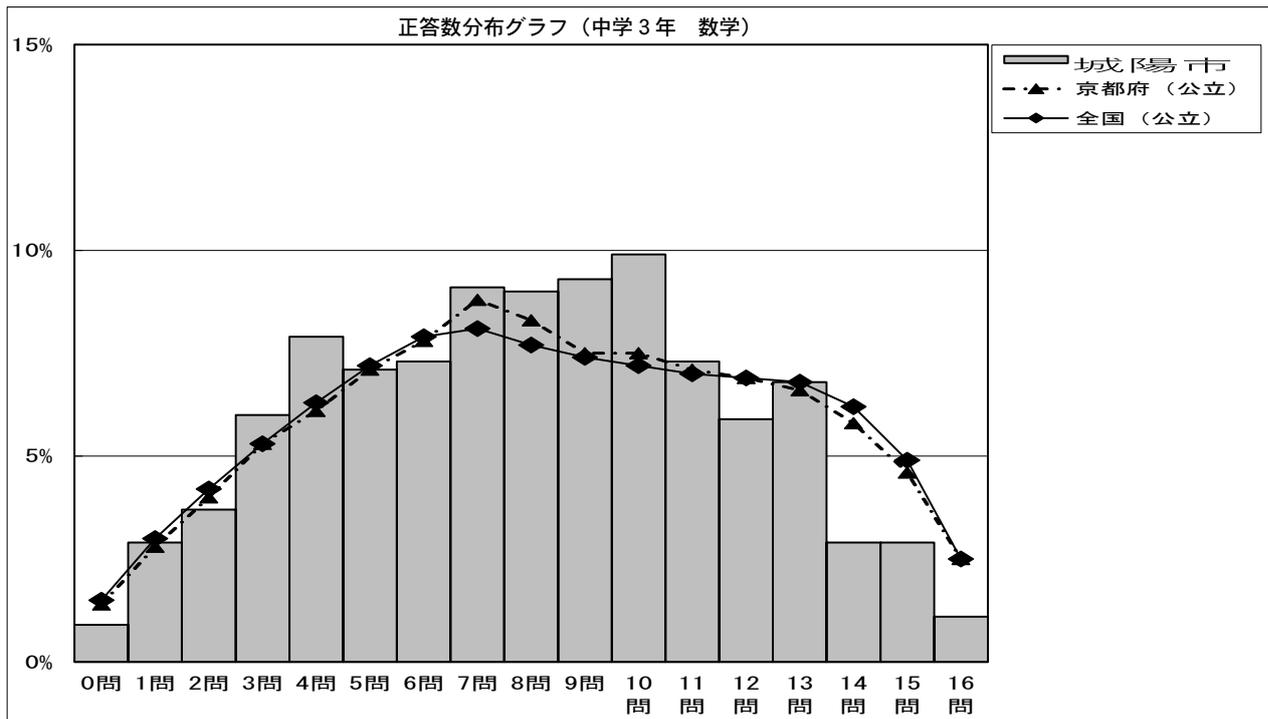
#### <全体の結果>



#### <領域別の結果>



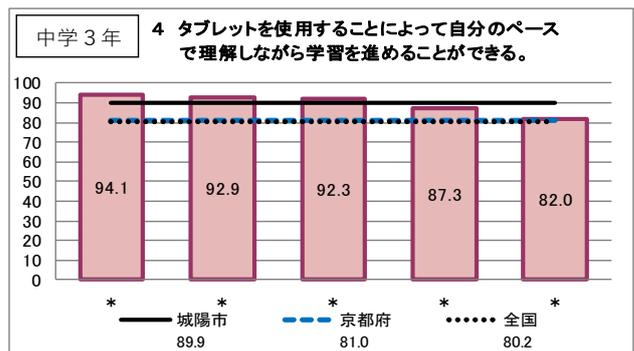
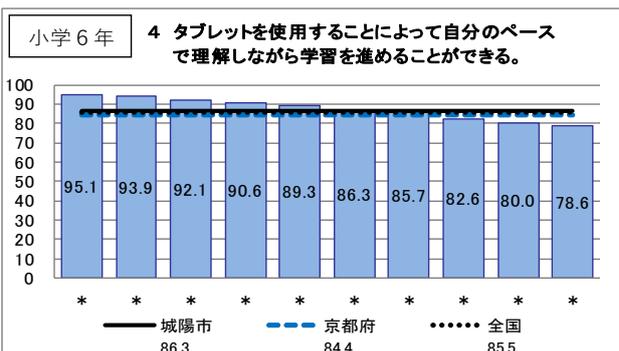
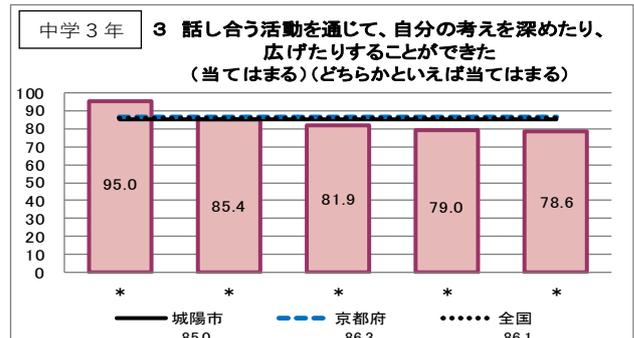
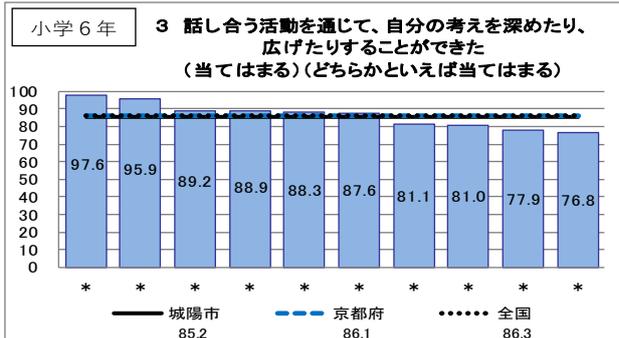
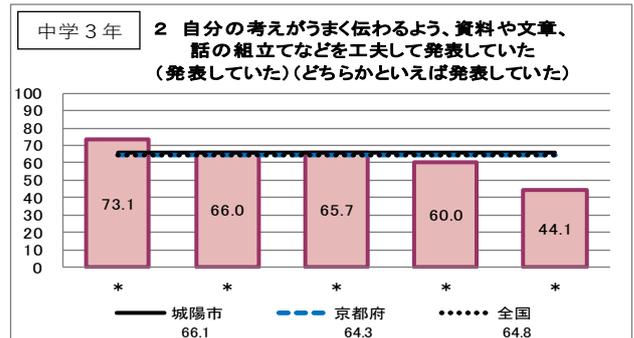
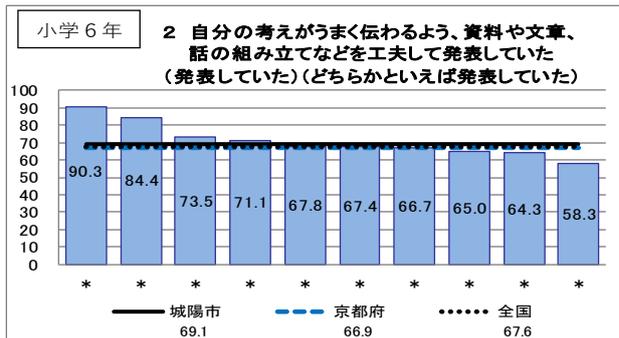
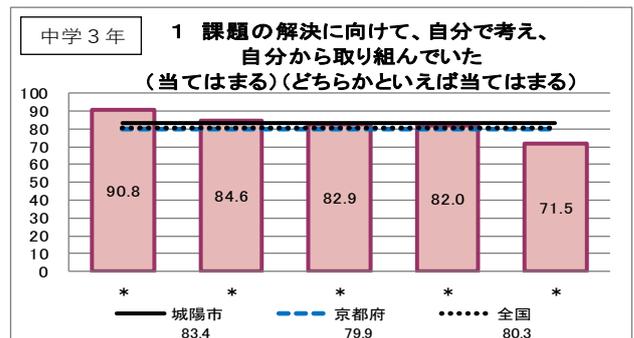
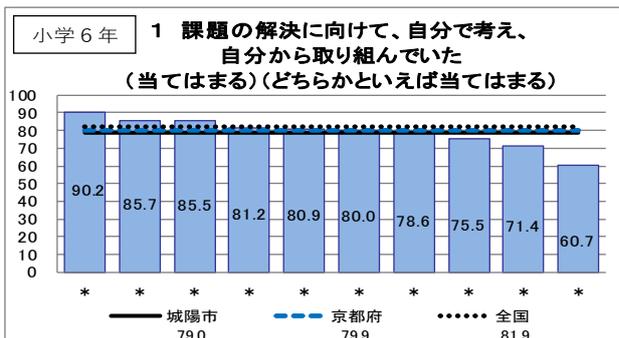
(2) 正答数分布グラフ・経年データ・正答率別推移



## 9 質問調査の結果（小学6年・中学3年）

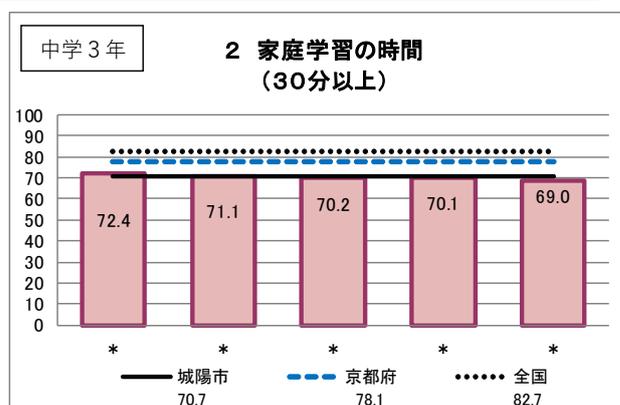
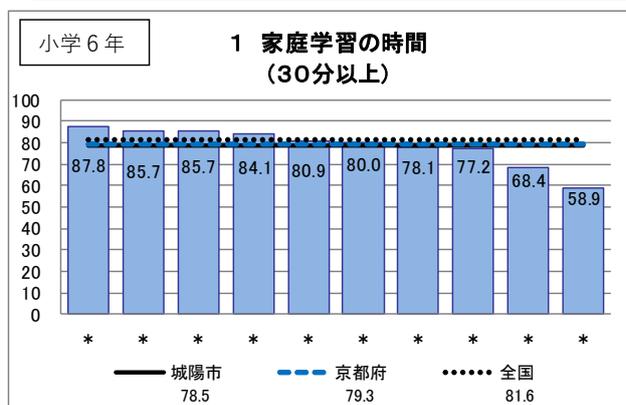
### (1) 授業について

- ・城陽市の平均を全国平均と比較すると、「2」の項目で上回り、文章や話の組み立てを工夫して話すことができる児童生徒が多いことが分かります。一方で、「3」の項目では、小学6年と中学3年ともにやや下回る結果となりましたが、85%以上の児童生徒が肯定的に回答しており、学びにつながる高い話し合いが展開されています。また、「4」の項目にもあるように、タブレットを効果的に使い、自分のペースで理解しながら進めることができます。
- ・質の高い「問い」の設定と、「個別最適な学びと協働的な学び」と「振り返り」を充実させることで、子ども自身が学びを実感し、自分で考え、自ら取り組む態度の育成を図ることが大切です。



## (2) 家庭学習について

- 子ども達が家庭でも計画的に学習できるよう、学習習慣を身に付けさせると同時に、学びに向かう力と学びを調整する力を育成することが求められます。また、各校で作成している「家庭学習の手引き」等を見直し、子ども達自身が有効活用できるよう、手立てを講じる必要があります。
- 家庭学習の時間が「30分以上」と回答した割合は、小学6年、中学3年ともに全国平均より低い割合となっており、家庭学習の習慣や時間の充実が求められます。



## (3) 生活習慣等について

- 朝食を毎日食べていると回答した割合は、全国平均と比較すると、小学6年と中学3年ともにやや上回る結果となりました。
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている、または、どちらかといえば寝ていると回答した割合は、全国平均と比較すると、小学6年で下回り、中学3年は同程度となりました。
- 学力の向上においても基本的な生活習慣は大切です。今後も基本的な生活習慣を確立できるよう粘り強く指導するとともに、それぞれの家庭と連携を密に図ることが求められます。

